

救命胴衣の配備・配布を！

地域の意見を聞き検討する



こまつ たかし 小松 孝年 議員

は、当然役に立たず、たとえ完成した後でも、災害時には何が起るかわからない、訓練どおり逃げられるとは限らない。町長のよく言っている二重三重の対策のひとつとして、すぐにとりかかるとは思いますが、考えを問う。

答 松本 情報防災課長

平成23年度は、高知県の補助事業と高知県市町村総合事業組合の助成制度を活用して、消防団へ117個の配布をした。

問 昨年の12月議会でも提案したが、津波対策の一つとして、救命胴衣を家や車に備えておくように住民に啓発してはどうか。また、公共施設や公用車、消防関係等の車両に配備しておくことも必要ではないか。

避難困難地域においては全額補助、それ以外は希望者に半額補助で取り組んではどうか。

震災は、何時どこで遭遇するか分からない。避難道や避難タワーの建設も急ぐが、建設途中で災害が発生した場合

は、最悪の事態の対策を講じるのは、重要なこと。地形や避難場所、浸水の状況によっては、救命胴衣などの装置が有効となる可能性も十分あると思っている。

今後、地域の方々の意見を聞きながら、検討したい。

スポーツ振興

部落対抗ソフトの復活を

意義深く、検討したい

問

スポーツを通じて住民が交流を深めていくことは、住民相互の新たな連携を促進するとともに、住民が一つの目標に向かい、共に努力し、達成感を味わうことや、地域に誇り、愛着を感じることで、地域の一体感や活力が生まれ、人間関係の希薄化などの問題を抱える地域の再生にもつながる。

また、スポーツ振興することによって、住民の心身の両面にわたる健康の保持、増進に大きく貢献し、医療費の削減の効果にもつながる。そういった意味でも、部落対抗ソフトボール大会を復活してはどうか。

答 金子 教育次長

新たに部落対抗ソフトボール大会を町が開催することは、他のスポーツとの関係から難しい。

答 大西 町長

部落対抗ソフトボール大会は、非常に意義深いイベントになることは、議員と同様の認識を持っている。

実行委員会形式で検討できないか、そういったところから着手していきたい。

その他の質問

※町発注工事と町内職人確保（建設業）について
※合宿誘致やアスリート誘致の意義について

梅雨の合間に、町内子ども会スポーツ大会が行われました。

